

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

— L3層～B5層 —

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

当プロジェクトでは、2007年度から、「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」として資料集成を実施している。これまでの作業により縄文時代草創期からB2層までの出土石器群を集成し、それぞれの層ごとに集成結果から見出される特筆の抽出を行った。

今年度は「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」の集成作業最後の層準、L3層からB5層で発見されている石器集中98ヶ所について集成を行なった。

以下、集成した文化層の一覧を掲載するとともに、検出された遺物分布の様相について「器種組成」・「石材組成」・「遺構分布」の視点から、各層の傾向を抽出し報告する。(三瓶)

a) 石器集中の器種組成

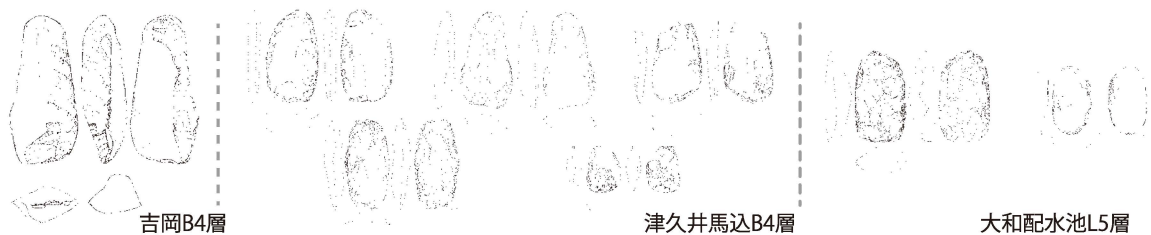
現在、神奈川県内最古の石器群は、綾瀬市吉岡遺跡群D区のB5層から発見された石器群である。石器集中地点は、計6ヶ所確認されているが、出土点数は最も多い集中で58点を数えるものの、他の5つの集中地点は7～9点と極めて小規模な遺物分布を呈する。しかし、ナイフ状石器や台形様石器といったこの時期に特徴的に出土する2つの器種は、両者とも出土する集中地点は3ヶ所、ナイフ状石器のみが出土するのは1ヶ所、台形様石器のみが出土するのは2ヶ所となっており、ほぼどちらか一方の器種は必ず各集中地点からの出土が認められる。また、前者と同様にこの時期を代表する石器の1つである打製石斧は、計7点と最も出土点数の少ない集中地点から1点のみ出土している。この他、削器・彫器・剥片類、石核も出土しているが、敲石などの石器製作具とされる器種の出土は認められない。

L5層段階になると、栗原中丸・大和配水池の2遺跡の存在が認められる。前者は10点と小規模な石器群であるが、後者は79点と点数的には小規模ながらややまとまった点数が認められる。大和配水池からは、やはりこの時期の器種組成として特徴的な局部磨製石斧が5点出土しており、これ以外にも打製石斧が2点と石斧が計7点出土している。また、ナイフ形石器やスクレイパーも新たに確認することが出来る。また、敲石・磨石・台石とされる礫石器の出土も確認することが出来る。

B4層段階になると、遺跡数は8遺跡14文化層に増え、これまで県央部付近でしか発見されていなかった遺跡が、相模原市緑区城山の津久井城跡馬込地区や藤沢市根下遺跡、また三浦市長浜ノ上遺跡など、県内広域に分布が認められるようになる。集中地点ごとの石器組成は本層の下部段階では、19点以下と小規模であるが吉岡D・根下・代官山では、ほとんどの集中地点に石核が安定的に組成する様になる。中～上部段階になると、県央部では50～200点前後の比較的点数がまとまった集中地点と3～30点程度の小規模なものにと区分出来る様になる。この中で、吉岡遺跡群C区では、計15ヶ所の集中地点が検出されているが、楔形石器が顕著に組成される様になる。これに対し、県北の津久井城跡馬込地区では、7ヶ所の集中地点の遺物の出土点数がいずれも65～450点を数えるものの、楔形石器は1点しか出土していない。逆に本遺跡からは局

部磨製石斧2点、打製石斧12点と多量の石斧が出土しており、接合作業の結果、石斧が原石に近い状態にまで復元できる資料も発見されている。つまり本遺跡は、石斧の製作址であるため、石斧・剥片・石核・敲石・磨石等の石斧製作関連資料が顕著に各集中地点から出土している。

B3～L3層は、14遺跡18文化層を数える。下部段階では、各集中地点内の出土点数は3～40点程度を主体とし、多いものでも70点程度と比較的小規模な石器集中が主体である。柏ヶ谷長ヲサ・上和田城山（4次）・吉岡Cでは、ナイフ形石器が石器組成中に比較的安定して観察できるようになる。これに対し、打製石斧は、吉岡Cから1点の出土が確認され、以後、石器組成からは除外される。中段～L3層段階でも各集中地点の規模は30点程度までのものが主体を占めるが、寺尾や大和配水池の様に360～764点という大規模遺跡なものも出現する。特に寺尾遺跡では、5ヶ所の集中地点中3ヶ所で400点以上の出土点数が確認され、縦長剥片を素材とした所謂茂呂系のナイフ形石器が顕著に確認される様になる。（栗原・大塚）



第1図 B4・L5層の石斧

第1表 石器器種組成一覧

	文化層	出土層位	ナイフ形石器	掻・削器	削器	剥片類	局部磨製石斧	楔形石器	彫器	石刃	錐鏃器	ナイフ状石器	台形様石器	打製石斧類	尖頭状石器	ヘラ状石器	砥石	磨石	敲石	磨・敲石	斧状石器	礫器	台石	石核	原石	加工痕礫類	自然礫	他	合計
吉岡C	L3	L3				8						2												2					12
上野第1地点	IX	L3U				27																							27
古淵B	IV	L3L-B4M	3	1		109																		1					114
大和配水池	X	L3L	4			363			1																				368
上野第1地点	X	B3				4																		1					5
馬込	5	B3	2			27																		2					31
矢指谷B	III	B3-波状帯	1			0												2	1					2					6
寺尾	VI	B3U	162	3	6	1681			1	8	3						3							16					1883
根下	II	B3U				4																							4
根下	III	B3間層				68			2										4					3			2		79
台山	IV	B3M		2		48			1										1		1		2				2		57
栗原中丸	VIII	B3M	2			5																							7
大和配水池	X I	B3M				22																							22
吉岡C		B3LU	10			77		9	4				12	1										12		2			127
長ヲサ	X II	B3L	4		2	33													3					1	1				44
代官山	IX	B3L				4																							4
打木原	V b	B3L 相当	1			151													3					5			2		162
上和田4次	III	B3L-L4UU	8			126												1						8	3				146
馬込	6	B4	5	2	9	1119	2	1	1				12	12		1	2	7	14	1	1	1	1	63	7				1261
長ヲサ	X III	B4U	1			13		1																2					17
吉岡A		B4U	4	1	1	188													2				1	1	13				211
吉岡B		B4U				3			1															2					6
吉岡C		B4U				5								2															7
吉岡E		B4U				19																		3					22
根下	IV	B4U	1			19							1				1	2						4					28
長浜/上	AT下2	B4U				1																							1
大和配水池	X II	B4U		1		2												1											4
吉岡C		B4M	2	3	2	345		24	4			3	4		3				1					56		6			453
吉岡D		B4L			3	33	1						2											9					48
代官山	X	B4L				9																		1					10
根下	V	B4L				1												2											3
長浜/上	AT下3	B4LM				1																							1
大和配水池	X IV	L5	6	2		55	5	2	3					2					2					2					79
栗原中丸	IX	L5U			1	6	1											1						1					10
吉岡D	B5	B5			3	72				2		5	9	1											6				98
合計			216	15	27	4648	9	37	20	8	3	10	39	19	3	1	2	15	36	1	1	3	3	216	11	8	2	4	5357

※剥片類：剥片・砕片・RF・UF・調整剥片・切断剥片・調整剥片 打製石斧類：打製石斧・打製石斧未成品 加工痕礫類：加工痕を有する礫・打痕を有する礫

6) 石器集中の石材組成

今回集成した19遺跡98集中から、石材組成について詳細な報告がなされている12遺跡75集中についてまとめる。本来ならば遺物集中ごとに石材組成の傾向を検討すべきだが、資料数が少ないということもあり大枠で層準ごとの傾向抽出にとどめることとする。

傾向を抽出する前提として、石器石材についてはこれまでの研究・調査史において、石材名称の変更や、同系統の石材を細分化した上で報告している事例が混在している。そこで石材集計するにあたり、同系統と考えられる石材については以下の通り大枠でまとめて検討することとする。凝灰岩・硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩・中粒凝灰岩・粗粒凝灰岩・流紋岩質凝灰岩を「凝灰岩系」、ガラス質黒色安山岩・玄武岩・富士玄武岩・玻璃質玄武岩・安山岩・トロトロ安山岩を「安山岩・玄武岩系」、頁岩・珪質頁岩・凝灰質頁岩を「頁岩系」、輝緑岩・変質輝緑岩を「輝緑岩系」、砂岩・硬質砂岩・粗粒礫岩を「砂・礫岩系」、珪岩・泥岩質珪岩を「珪岩系」。この区分は器種組成を考える際にはいささか乱暴ではあると思われるが、石材組成の傾向を捉えるためにはある程度有効かと考える。以下、各層での傾向を述べる。

L3層

本層には、月見野上野第1地点(81) IXの集中1、吉岡C区(102) L3の集中1、大和配水池(318) Xの集中1・2の計3遺跡4集中が該当する。

4ヶ所の遺物集中で合わせて389点の遺物が出土しており、黒曜石が377点(96.9%)とほぼ主体的に構成しており、上層であるB2層下部の様相と同様な傾向を示す(旧石器研究プロジェクト2014『研究紀要19』pp.5)。4ヶ所の石器集中は相模野台地に所在しており、地域偏差を見ることは出来ない。

B3層

本層には、栗原中丸(70) VIII、柏ヶ谷長ヲサ(74) X IIの集中2、月見野上野第1地点(81) X、台山(84) IVの集中1～4、寺尾(96) VIの集中1～5、吉岡C区(102) B3LUの集中1～14、代官山(109) IXの集中1、根下(283) IIの集中1、矢指谷B地区(313)、大和配水池(318) IXの集中1・2、打木原(347) Vbの集中5～8、津久井城跡馬込(368) 6の計11遺跡32集中が該当する。

B3層全体では2265点の遺物が出土しており、1866点(82.4%)が黒曜石、次いで181点(8.0%)の凝灰岩系石材で構成される。これをさらに同層準の上部・中部・下部(各層をまたぐ出土例は除く)で見えてみると、以下の通りとなり、さらに地域的にもある程度の傾向が認められる。

上部: 寺尾、根下の2遺跡6集中が検出され、1878点。うち黒曜石が1819点(96.9%)と卓越する。

両遺跡はともに相模野台地に所在している上、出土遺物の点数はほぼ寺尾資料で構成されている。

中部: 栗原中丸、台山、大和配水池の3遺跡7集中が検出され、29点の遺物が出土している。石器石材としては黒曜石が25点(86.2%)と卓越し、B3層上部同様L3層の様相と類似する。3遺跡はすべて相模野台地に所在しており、地域差を見ることは出来ない。

下部: 柏ヶ谷長ヲサ、吉岡C区、代官山、打木原の4遺跡20集中が検出されており295点が出土している。使用されている石材の数順に列記すると、凝灰岩系が150点(50.8%)、安山岩・玄武岩系が47点(15.9%)、ホルンフェルスが40点(13.6%)、頁岩系28点(9.5%)と続く。

さらに詳細を見ていくと相模野台地では、安山岩・玄武岩系46点(34.6%)、凝灰岩系が45点(33.8%)と箱根火山系や丹沢山塊の石材が上位を占めていることに対し、三浦半島に所在する打木原(347)では凝灰岩系が105点(64.8%)、ホルンフェルスが37点(22.8%)と丹沢山塊の石材に秩父山地から多摩川にかけ

て分布する石材が出現する。

L 4層

上和田城山（4次）（90）Ⅲに出土例が報告されているが、抽出条件に見合った事例は見られない。

B 4層

本層には、柏ヶ谷長ヲサ（74）XⅢの集中1、吉岡C区（102）B4Uの集中1・2、同B4Mの集中1～11、吉岡D区（103）B4Lの集中1～4、代官山（109）Xの集中1A、大和配水池（318）XⅡ、同XⅢの集中1、津久井城跡馬込（368）6の集中A～Gの計5遺跡31集中が該当する。

B4層全体では1814点の遺物が出土している。928点（51.2%）が凝灰岩系石材、次いで380点（20.9%）の安山岩・玄武岩系石材、179点（9.9%）の頁岩系石材、129点（7.1%）のホルンフェルスと続く。

B3層同様、本層準の上部・中部・下部（各層をまたぐ出土例は除く）で細分した。

上部：柏ヶ谷長ヲサ、吉岡C区、大和配水池の3遺跡4集中が検出しており、出土遺物の合計は24点である。分母が少ないながらも石器石材を見てみると、凝灰岩系石材が15点（62.5%）、安山岩・玄武岩系石材が4点（16.7%）、ホルンフェルスが3点（12.5%）と続き、石材利用はB3層下部の様相と共通する。

地域的な差異等については3遺跡とも相模野台地に所在で、各遺跡間でも同様な利用頻度となっている。

中部：吉岡C区のみ1遺跡15集中が検出され、446点の遺物が出土している。石器石材としては安山岩・玄武岩系石材が350点（78.5%）と主体を占め、チャートが42点（9.4%）と急な使用率の伸びが認められる。数字だけをみると上層との石材利用環境に変化が認められる。この状況が一遺跡の様相なのかどうかを検討するためには、今後の資料の増大が望まれる。

下部：吉岡D区、代官山の2遺跡5集中が検出され、合計56点が出土している。石器石材としては黒曜石が44点（78.6%）と主体を占め、凝灰岩系が6点（10.7%）と続く。また、後にも関連して述べるが水晶が2点（3.6%）出土していることを特筆しておきたい。

本層においても上層との間に石材利用の変化が見出せられる可能性を秘めている。

最後にB4層中の石材利用の特徴として水晶利用を挙げておきたい。今回集成作業によって抽出された数は9点と数の上では少ない。しかしながらL3層からB5層までの大きな時間幅があるものの、9点すべてが本層から出土している。本層の特色となりうるのか、今後の出土事例の増大に期待する。

L 5層

本層には、栗原中丸（70）Ⅸの集中1、大和配水池（318）XⅣの集中1の2遺跡2集中が該当する。

L5層全体では89点の遺物が出土しており、34点（38.2%）が黒曜石、次いで30点（33.7%）の凝灰岩系石材、17点（19.1%）のチャートと続く。大和配水池では黒曜石と凝灰岩が主体を占めており、B4層下部との共通点が認められる。

B 5層

本層は、吉岡D区（103）B5の集中2～6が該当する。

B5層全体で40点の遺物が出土しており、33点（82.5%）がチャートと他の石材を圧倒する。

小括

石材利用の変遷を大まかに述べると、B2層上部では、黒曜石が3割程度利用され、補助として凝灰岩系や安山岩・玄武岩系の石材を利用している。B2層下部では黒曜石の利用が主体となり、他の石材利用が非常に低い状態となる。その傾向はB3層中部まで続く。B3層下部からB4層中部にかけては、黒曜石の利用はほ

第2表 各層の石材組成

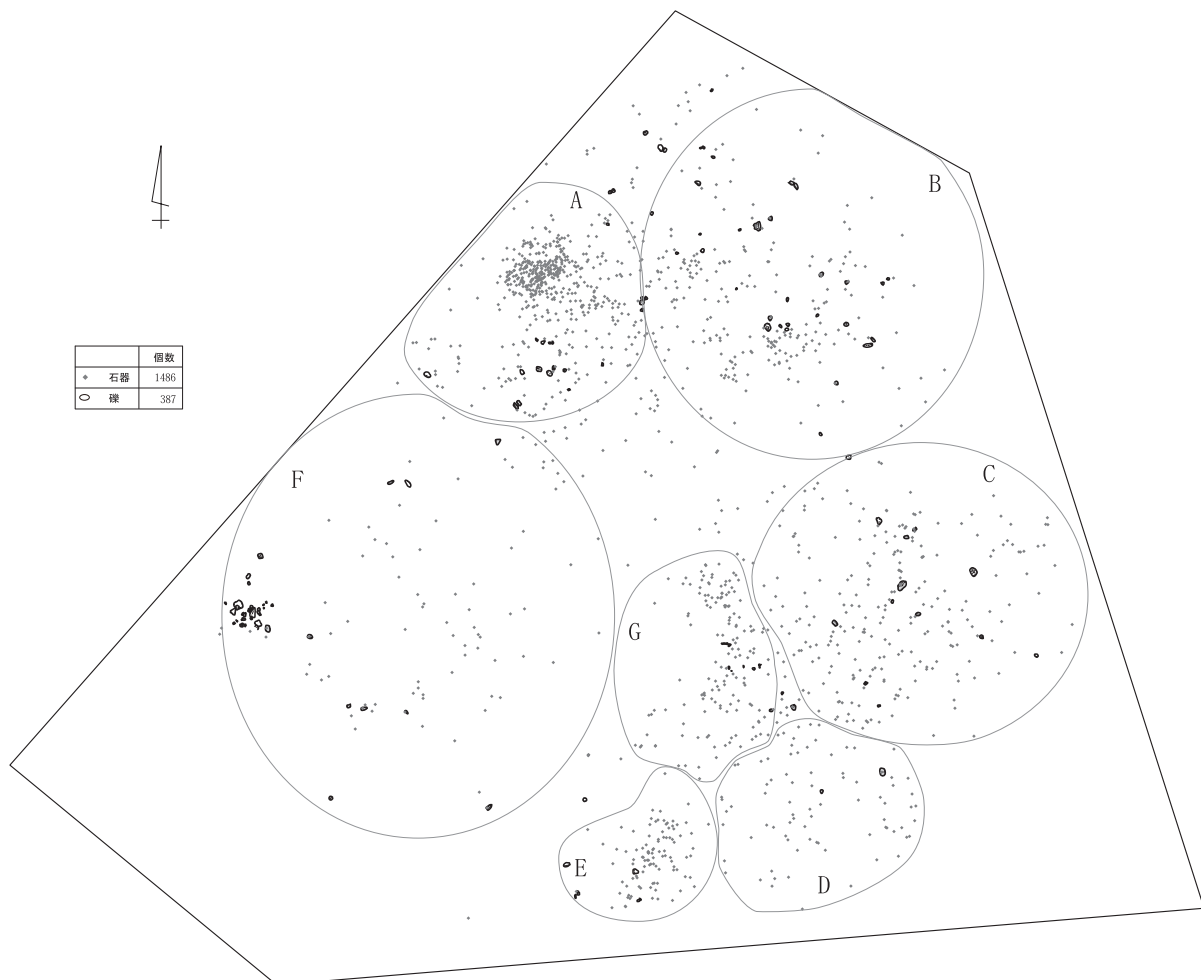
	黒曜石	凝灰岩系	玄武岩・安山岩系	頁岩系	チャート	ホルンフェルス	輝緑岩系	砂・礫岩系	粘板岩	珪岩系	水晶	斑レイ岩	石英	閃緑岩系	流紋岩	アブライド	瑪瑙	碧玉	石英斑岩	合計 上段 点数 下段 %
L3層全体（点数）	377	4	2	2					4											389
L3層全体（%）	96.9%	1.0%	0.5%	0.5%					1.0%											100%
L3層上部出土（点数）		4							4											8
L3層上部出土（%）		50.0%							50.0%											100%
L3層下部出土（点数）	367		1																	368
L3層下部出土（%）	100.0%																			100%
L3層中心に層を跨ぐ出土数	10		1	2																13
B3層全体（点数）	1866	181	55	73	17	40	3	3	7	9		1	3	2	1	2		1	1	2265
B3層全体（%）	82.4%	8.0%	2.4%	3.2%	0.8%	1.8%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%		0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%		0.0%	0.0%	100%
B3層上部出土（点数）	1819	2	2	44						9						2				1878
B3層上部出土（%）	96.9%	0.1%	0.1%	2.3%						0.5%						0.1%				100%
B3層中部出土（点数）	25	1			2				1											29
B3層中部出土（%）	86.2%	3.4%			6.9%				3.4%											100%
B3層下部出土（点数）	10	150	47	28	12	40		2				1	1	1	1			1	1	295
B3層下部出土（%）	3.4%	50.8%	15.9%	9.5%	4.1%	13.6%		0.7%				0.3%	0.3%	0.3%	0.3%			0.3%	0.3%	100%
B3層中心に層を跨ぐ出土数	12	28	6	1	3		3	1	6				2	1						63
B3層下部相模野台地出土（点数）	9	45	46	14	12	3		1				1	1	1						133
B3層下部相模野台地出土（%）	6.8%	33.8%	34.6%	10.5%	9.0%	2.3%		0.8%				0.8%	0.8%	0.8%						100%
B3層下部三浦半島出土（点数）	1	105	1	14		37		1							1			1	1	162
B3層下部三浦半島出土（%）	0.6%	64.8%	0.6%	8.6%		22.8%		0.6%							0.6%			0.6%	0.6%	100%
B4層全体出土（点数）	91	928	380	179	69	129	14	4	1	2	9	4	1	1			2			1814
B4層全体出土（%）	5.0%	51.2%	20.9%	9.9%	3.8%	7.1%	0.8%	0.2%	0.1%	0.1%	0.5%	0.2%	0.1%	0.1%			0.1%			100%
B4層上部出土（点数）	2	15	4			3														24
B4層上部出土（%）	8.3%	62.5%	16.7%			12.5%														100%
B4層中部出土（点数）		16	350	28	42	3	7													446
B4層中部出土（%）		3.6%	78.5%	6.3%	9.4%	0.7%	1.6%													100%
B4層下部出土（点数）	44	6	2							2	2									56
B4層下部出土（%）	78.6%	10.7%	3.6%							3.6%	3.6%									100%
B4層中心に層を跨ぐ出土数	45	891	24	151	27	123	7	4	1		7	4	1	1			2			1288
L5層全体出土（点数）	34	30		4	17	2			2											89
L5層全体出土（%）	38.2%	33.7%		4.5%	19.1%	2.2%			2.2%											100%
B5層全体出土（点数）	1	3		2	33										1					40
B5層全体出土（%）	2.5%	7.5%		5.0%	82.5%										2.5%					100%
合計（点数）	2369	1146	500	262	210	171	17	16	14	11	9	5	4	3	2	2	2	1	1	4745
合計（%）	49.9%	24.2%	10.5%	5.5%	4.4%	3.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%

とんど認められず、在地や近在の石材である凝灰岩系石材や安山岩・玄武岩系が主体となっている。その際、地域によってはより在地に近い石材を利用する傾向が認められる。B4層下部では黒曜石が使われ、上下層で見られる在地・近在石材の利用度が低い。L5層では黒曜石とともに凝灰岩系の石材が利用されている。B5層ではチャートが主要石材として存在する。(三瓶)

c) 石器集中と遺構分布

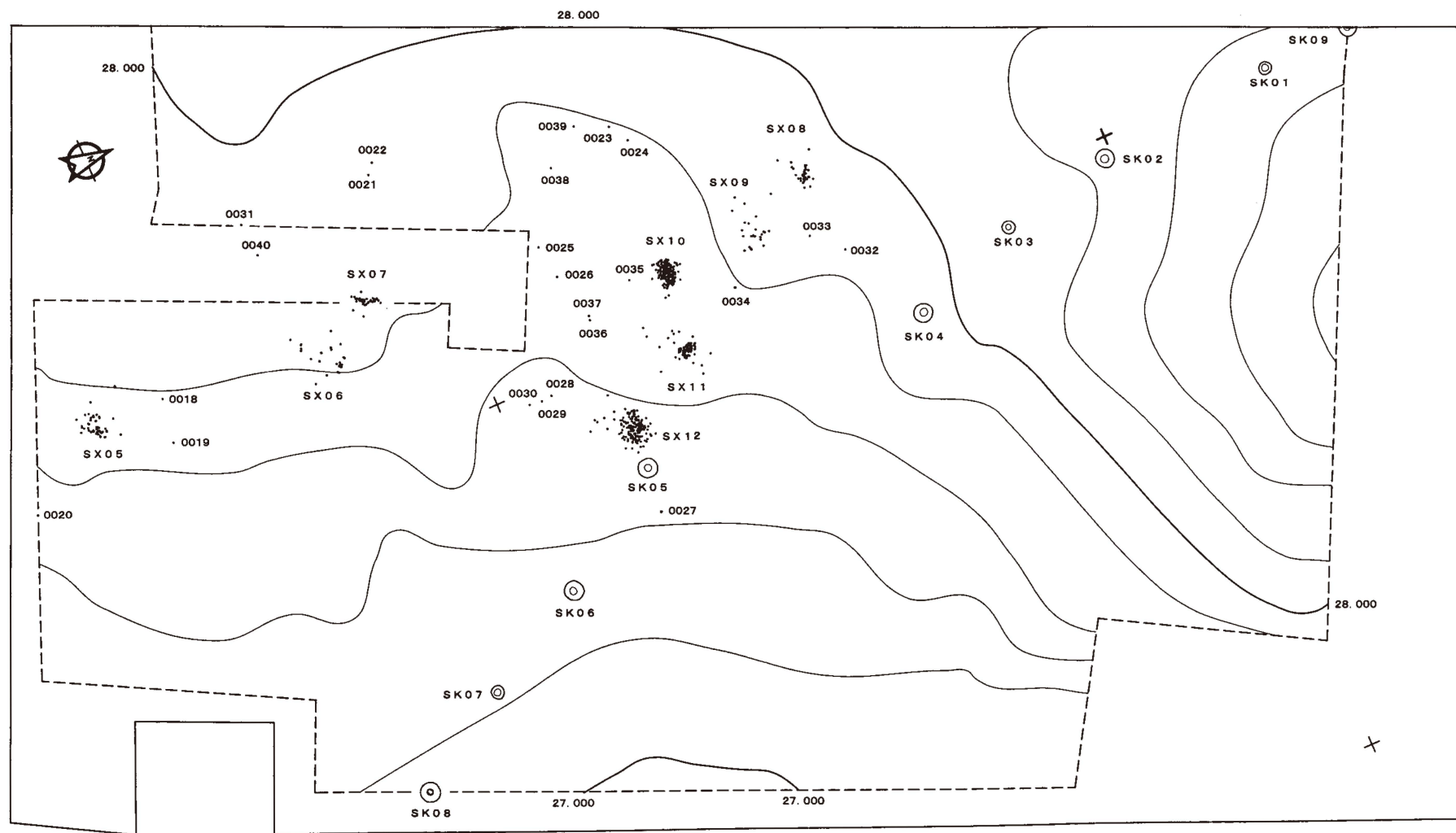
L3層以下の遺跡数は19を数える。このうち遺構が確認された遺跡は8遺跡である。遺構は、礫群、配石、炭化物集中、土坑である。

礫群は、大和配水池(318)第XIV文化層の出土例が県内最古となる。L3層まで数量は少ないが、断続的に認められ、殆どの礫群は石器集中と重複関係が認められる。配石も大和配水池(318)第XIV文化層の事例が最古となる。配石も石器集中と重複関係を有する。配石は出土事例が少なく、大和配水池(318)と柏ヶ谷長ヲサ(74)の2遺跡のみである。ただ、津久井城跡馬込地区(368)第6文化層では、B4層中から環状ブロック群に伴い、礫集中が確認されている。詳しい報告はないが、扁平な礫や敲打痕のある礫がみられ、礫に混



第2図 津久井城跡馬込地区の環状ブロック群と礫集中

0 [1/250] 5m



第3図 打木原遺跡 (横須賀市緑政部 横須賀市教育委員会 2002 『打木原遺跡』)

じって叩き石や台石などが存在する。また、出土した礫に明確な被熱の痕跡が認められるものはほとんど無かった。そのため、これらの礫集中は礫群というより、石器製作に関連した配石遺構の可能性が高いものと思われる。

炭化物集中は吉岡D区(103)で確認されている。炭化物集中地点が2箇所確認されており、炭化物集中地点1は石器集中と重複する。土坑は、打木原(347)第Vb層で確認されている。

打木原(347)では石器集中が長井台地Vb層上面で僅かながら谷地形を形成している部分から出土している。土坑はその西側に位置する。土坑は台地を下るように緩い弧状を呈するように配置されている。SK04とSK05との間隔がやや離れているが、その他はほぼ等間隔である。

土坑造営時期と石器集中形成時期には当然時間差はあると考えられるが、土坑が作られるラインが何らかの境界となっていた可能性は考えられる。(畠中・脇)

おわりに

2007年度から実施してきた「神奈川県における旧石器時代の遺物分布」と題した資料集成は、ようやく現在確認されている最古の文化層へ到達した。ここまで検討項目の視座として「器種組成」・「石材組成」・「石器集中と遺構分布」を選択し活動してきたが、文化層によっては特筆点の抽出をするために少しずつアプローチの手法をかえる必要があり、毎年同じ形での検討を行なったわけではない。特に今年度は資料数の少なさも手伝い、「遺物分布」というキーワードに対して十分な検討が進められたとは言えない。

今後の課題は、本集成作業を行った8年の間に新たに出土した新知見を補完し、あらためて検証を行うこと。富士黒色土層下部からB5層までの資料を通観し検討を加えること。各時期において小地域単位で抽出される石器群の差異の検討など枚挙に暇がない。

これまでの集成・検討作業をもとにあらためて各時期の遺物分布を見つめ直すことが必要であろう。(三瓶)

引用・参考文献

- 55 金山喜昭・土井永好・武藤康弘 1984『中村遺跡 先土器時代編』相模原市橋本遺跡調査会
- 70 大上周三・鈴木次郎 1984『栗原中丸遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告3 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 74 下角圭司・服部隆博 1983『海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団
- 81 相田 薫 1986『大和市文化財調査報告書第21集 月見野遺跡群上野遺跡第1地点』大和市教育委員会
- 84 麻生順司 1981『大和市文化財調査報告書第15集 台山遺跡発掘調査報告書』大和市教育委員会
- 90 小池 聡・小塚知之 1994『上和田城山遺跡 第4次調査』大和市上和田城山遺跡調査会
- 96 白石浩之・鈴木次郎 1980『寺尾遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告18 神奈川県教育委員会
- 100・101・104 砂田佳弘 1996『吉岡遺跡群Ⅰ』かながわ考古学財団報告6 財団法人かながわ考古学財団
- 102・103 白石浩之 1996『吉岡遺跡群Ⅱ』かながわ考古学財団報告7 財団法人かながわ考古学財団
- 109 砂田佳弘 1986『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告11 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 157 松井 泉 1990『古淵B遺跡』相模原市古淵B遺跡発掘調査団
- 238 麻生順司 1987『藤沢市根下遺跡発掘調査報告書』藤沢市根下遺跡発掘調査団
- 313 乾 哲也 1985『矢指谷遺跡発掘調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会
- 316 佐藤明夫 1999『長井台地遺跡群長浜ノ上遺跡』横須賀市教育委員会
- 318 麻生順司 2002『上草柳遺跡群大和配水池内遺跡』大和市No.199遺跡発掘調査団
- 347 佐藤明生 2002『打木原遺跡』横須賀市緑政部 横須賀市教育委員会
- 368 畠中俊明・澁谷正信他 2010『津久井城跡馬込地区』かながわ考古学財団報告249 公益財団法人かながわ考古学財団
- 旧石器時代研究プロジェクトチーム 2014『神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その7)』『かながわの考古学』研究紀要19 公益財団法人かながわ考古学財団

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(m ²)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成(※1)	石材組成(※2)	備考 (共伴遺構など)
70	栗原中丸	B3M	VIII	12000	-	-	7	-	-	ナ2、F5	黒3、チ2、細凝1、粘1	
70	栗原中丸	L5U	IX	12000	1	-	10	-	-	局斧1、削1、F6、台1、磨1	細凝3、チ5、粘2	
74	柏ヶ谷長ヲサ	B3L	XII	5500	1	14×6	14	0.17	散漫	削1、UF1、敲1、F10、原1	ガ黒安、硬細凝、安、輝	礫群2、配石2
74	柏ヶ谷長ヲサ	B3L	XII	5500	2	8×8	30	0.47	散漫	ナ4、削1、RF1、敲2、F17、砕4、核1	黒、ガ黒安、硬細凝	礫群4、配石1
74	柏ヶ谷長ヲサ	B4U	XIII	5500	1	7×7	17	0.35	散漫	ナ1、楔1、F13、核2	黒4、硬細凝5、中凝6、ホ2	礫群1、配石1
81	月見野上野第1地点	L3U	IX	12000	1	4.0×4.0	29	1.81	散漫	RF1、UF1、F25	凝4、粘4	ブロック外にF2
81	月見野上野第1地点	B3	X	12000	-	-	5			UF1、F3、核1	凝1、粘1、チ1	
84	台山	B3M	IV	3000	1	2.1×1.2	12	4.76		搔・削1、UF1、F7、核2、敲1	安、ホ	
84	台山	B3M	IV	3000	2	4.1×2.6	25	3.7		彫1、搔・削1、RF1、UF1、F19、礫器1、その他1	凝、安、玄、ホ、その他	
84	台山	B3M	IV	3000	3	3.3×0.9	6	2.02		F6	玄	
84	台山	B3M	IV	3000	4	3.1×2.3	14	1.96		F13、その他1	安、玄、ホ	
90	上和田城山(4次)	B3L-L4UU	III	250	1	4.5×3	76	5.62		ナ5、RF3、UF4、F42、砕15、磨1、核3、原3	黒、凝、流	
90	上和田城山(4次)	B3L-L4UU	III	250	2	5.2×3.0	40	2.56		ナ2、RF3、UF3、F21、核3、砕8	黒、凝、安、頁	礫群
90	上和田城山(4次)	B3L-L4UU	III	250	3	5.9×2.2	21	1.61		ナ1、RF1、UF1、F21、砕1、核2、	黒、凝、砂、頁	
90	上和田城山(4次)	B3L-L4UU	III	250	4	—	3	—		RF1、F2	黒、凝、安	
96	寺尾	B3U	VI	1200	1	3×2	10	1.67	集中	ナ3、彫1、石刃1、F4、核1	玄10	
96	寺尾	B3U	VI	1200	2	7×5	765	21.86	密集	ナ54、削3、錐2、磨1、RF9、UF7、折F39、石刃2、F235、砕404、核9	珪5、黒759、アブ1	
96	寺尾	B3U	VI	1200	3	6×2	64	5.34	密集	ナ9、磨1、RF2、折F13、F14、砕25	玄1、黒63	
96	寺尾	B3U	VI	1200	4	8×5	408	10.2	密集	ナ43、搔1、削2、磨1、RF7、UF2、折F37、石刃4、F150、砕154、核7	珪44、黒362、細凝1、硬砂1	
96	寺尾	B3U	VI	1200	5	6×4	637	26.54	密集	ナ53、搔2、削1、錐1、磨1、RF8、UF1、折F32、石刃1、F174、砕363	珪1、黒635、アブ1	
100	吉岡A区	B4U	-	1439		8×8	212	0.3	集中	ナ4、搔1、削1、F137、砕51、核13、礫器1、敲2、台1	ガ黒安、黒、中凝、硬細凝、凝、頁	
101	吉岡B区	B4U	-	1150		径1.5	6	0.3	散漫	彫1、F3、核2	安、凝	
102	吉岡C区	L3	-	36000	1	径3.5	13	0.7	散漫	ナ状2、RF1、UF1、F5、砕1、核2	黒10、珪頁2、ガ黒安1	
102	吉岡C区	B3LU	-	36000	1	8.8×6.3	25	2.2	散漫	楔3、台形様2、彫1、RF2、F12、砕1、核1、石斧未成品1、打痕礫1、加工痕礫1	珪頁1、硬細凝15、中凝1、ガ黒安5、ホ1、石英1、石英閃緑岩1	礫群
102	吉岡C区	B3LU			2	径6	10	2.8	散漫	台形様3、F3、核4	珪頁1、硬細凝5、中凝3、ホ1	
102	吉岡C区	B3LU			3	3.0×1.5	5	0.9	散漫	RF2、F2、核1	ガ黒安5	
102	吉岡C区	B3LU			4	5.0×2.5	5	2.5	散漫	ナ1、RF1、F2、核1	チ1、珪頁1、硬細凝1、ガ黒安1、ホ1	

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積 (㎡)	各集中No.	分布範囲 (m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成 (※1)	石材組成 (※2)	備考 (共伴遺構など)
102	吉岡C区	B3LU			5	径2.5	14	0.4	集中	ナ1、台形様1、F6、砕6	頁1、ガ黒安13	
102	吉岡C区	B3LU			6	8.0×4.5	22	1.6	散漫	ナ1、台形様4、彫2、RF2、F9、砕1、核1	珪頁6、硬細凝8、中凝1、ガ黒安7	
102	吉岡C区	B3LU			7	3.5×2.0	7	1	散漫	楔1、ナ1、台形様1、RF1、F3	珪頁1、硬細凝5、ホ1	
102	吉岡C区	B3LU			8	径5	3	6.5	散漫	UF1、砕2	珪頁1、硬細凝1、ガ黒安1	礫群
102	吉岡C区	B3LU			9	5.0×3.5	6	2.9	散漫	ナ2、F3、核1	硬細凝5、中凝1	
102	吉岡C区	B3LU			10	径3	3	2.3	散漫	ナ2、F1	ガ黒安3	
102	吉岡C区	B3LU			11	径3.5	7	1.4	散漫	ナ1、彫1、RF1、UF1、F2、砕1	黒3、ガ黒安4	
102	吉岡C区	B3LU			12	径4	6	2.1	散漫	ナ1、F4、砕1	ガ黒安4、砂1、斑レイ1	
102	吉岡C区	B3LU			13	径3	11	0.6	散漫	楔5、F4、核2	チ11	
102	吉岡C区	B3LU			14	5.0×3.0	5	3	散漫	台形様1、F3、核1	硬細凝3、ガ黒安2	
102	吉岡C区	B4U			1	2.0×1.0	5	0.4	散漫	打斧1、F4	ガ黒安3、硬細凝1、ホ1	
102	吉岡C区	B4U			2	3.0×0.5	2	0.8	散漫	F1、打斧片1	硬細凝2	
102	吉岡C区	B4M			1	4.5×4.0	22	0.8	散漫	ナ状1、F・砕12、核4、打痕礫5	ガ黒安15、珪頁1、トロ安1、輝緑岩5	
102	吉岡C区	B4M			2	径2.1	25	0.1	集中	彫1、F・砕19、核5	ガ黒安22、珪頁1、チ1、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			3A	径2	13	0.2	散漫	楔1、搔1、F・砕10、核1	ガ黒安7、チ1、珪頁3、頁2	
102	吉岡C区	B4M			3B	径1.5	6	0.3	散漫	F・砕5、核1	チ1、珪頁3、頁1、ガ黒安1	
102	吉岡C区	B4M			4	4.5×2.0	7	1.3	散漫	楔1、台形様1、彫1、F・砕2、核2	ガ黒安3、チ1、珪頁2、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			5	3.2×2.5	63	0.1	集中	楔4、台形様2、RF1、F・砕48、核7、打痕礫1	ガ黒安49、チ4、流凝1、安6、トロ安1、輝緑1	
102	吉岡C区	B4M			6A	3.0×1.5	38	0.1	集中	楔2、ナ状1、彫1、F・砕29、核5	ガ黒安35、チ3	
102	吉岡C区	B4M			6B	3.5×2.5	167	0.1	密集	楔10、尖頭状2、ナ状1、RF4、UF3、F・砕131、核16	ガ黒安134、チ20、珪頁2、流凝4、ホ3	
102	吉岡C区	B4M			7A	径2.5	29	0.2	集中	楔2、尖頭状1、台形様1、搔1、彫1、RF1、F・砕19、核3	ガ黒安24、チ2、硬細凝2、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			7B	径2.0	8	0.4	散漫	F・砕6、核2	ガ黒安6、チ1、流凝1	
102	吉岡C区	B4M			7C	径3.0	6	1.2	散漫	RF1、F・砕4、核1	ガ黒安2、チ2、流凝2	
102	吉岡C区	B4M			8	6.0×5.0	52	0.6	集中	楔3、ナ1、削1、UF4、F・砕36、核6、敲石片1	ガ黒安39、チ6、珪頁3、頁3、輝緑1	
102	吉岡C区	B4M			9	径1.7	10	0.2	散漫	ナ1、搔1、削1、RF1、F・砕4、核2	珪頁8、細凝2	
102	吉岡C区	B4M			10	径1.0	3	0.2	散漫	楔1、F・砕2	ガ黒安3	
102	吉岡C区	B4M			11	径1.5	3	0.6	散漫	F・砕2、核1	ガ黒安2、流凝1	
103	吉岡D区	B4L			1	径2.0	9	0.3	散漫	台形様2、削1、F2、砕1、核3	黒7、水晶2	
103	吉岡D区	B4L			2	2.5×1.5	13	0.3	散漫	F6、砕6、核1	黒13	
103	吉岡D区	B4L			3	4.0×2.0	19	0.4	散漫	削1、RF1、F5、局斧1、砕7、核4	黒18、細凝1	
103	吉岡D区	B4L			4	2.0×1.0	7	0.3	散漫	削1、F2、砕3、核1	黒6、ガ黒安1	

神奈川県における旧石器時代の遺物分布(その8)

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(m ²)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成(※1)	石材組成(※2)	備考(共伴遺構など)
103	吉岡D区	B5			1	4.0×1.8	58	0.1		台形様3、ナ状1、削1、彫1、RF2、UF1、F・砕47、核2	チ56、頁2	
103	吉岡D区	B5			2	5.0×3.0	9	1.7		ナ状2、彫1、F・砕5、核1	チ9	
103	吉岡D区	B5			3	径5.0	8	2.5		台形様1、ナ状1、削1、F・砕5	チ4、珪頁1、硬細凝2、流1	
103	吉岡D区	B5			4	径2.5	8	0.6		台形様3、RF1、F2、核2	チ8	
103	吉岡D区	B5			5	3.0×1.5	8	0.6		台形様1、ナ状1、F・砕6	黒1、チ6、珪頁1	炭化物集中地点
103	吉岡D区	B5			6	3.0×2.0	7	0.9		台形様1、削1、RF1、F・砕2、核1、石斧基部1	チ6、中凝1	
104	吉岡E区	B4U	－	280	集中1	径1.5	18	0.1	集中	UF1、F10、砕4、核3	安	
104	吉岡E区	B4U	－	280	集中2	2.0×0.5	4	0.3	散漫	F4	安	
109	代官山	B3L	IX	1100	1	5.4×3.1	4	0.24	散漫	F4	黒2、珪頁2	
109	代官山	B4L	X	1100	1A	8×3.5	10	0.36	散漫	F6、UF3、核1	安1、凝5、珪2	
157	古淵B	L3L-B4M	IV	1800	35	8.0×8.0	98	1.53	比較的密	ナ2、搔・削1、F95、核1	黒、粘	礫群
157	古淵B	L3L-B4M	IV	1800	36	2.0×2.0	7	1.75	散在	F7	黒、安、粘	
157	古淵B	L3L-B4M	IV	1800	37	1.5×1.5	8	3.55	疎	ナ1、F7	黒	
283	根下	B3U	II	560	1	4.0×3.0	4	0.33		F4	泥珪3、凝1	礫群2
283	根下	B3間層	III	560	1	3.2×1.7	59	10.84		UF2、F51、核2、敲4、その他2	凝、砂、泥珪、閃、火砕岩	礫群1
283	根下	B3間層	III	560	2	3.2×1.2	18	4.68		彫2、RF1、F14、核1	泥珪、凝	
283	根下	B4U	IV	560	1	3.1×1.7	18	3.41		ナ1、F13、核3、敲1	安、砂、ホ	
283	根下	B4U	IV	560	2	3.3×1.5	10	2.02		UF1、F5、核1、打斧1、敲1、磨1	砂、凝、チ、安	礫群1
283	根下	B4L	V	560	1	1.5×0.7	3	2.85		F1、敲2	安、火砕岩	
313	矢指谷B地区	B3-波状帯	III	192	－	－	112		－	ナ1、磨2、敲1、核2、剥、砕	玻璃質玄58、チ20、黒7、砂6、粘5、輝3、安2、粗凝2、粗礫2、硬砂2、閃1、石英1、細凝1、不明1	
316	長浜ノ上	B4U	AT下2	640	1	5.1×2.0	3	0.29		RF	黒	この他に一括遺物2点あり
316	長浜ノ上	B4LM	AT下3	640	1	—	—	—		F	玄	この他に一括遺物1点あり
318	大和配水池	L3L	X	3849	1	4×4.2	360	21.43	密集	ナ4、彫1、RF1、UF3、F類351	黒359、安1	
318	大和配水池	L3L	X	3849	2	0.5×0.4	8	40	密集	F類8	黒8	
318	大和配水池	B3M	XI	3849	1	0.8×0.6	7	14.58	密集	F類7	黒7	
318	大和配水池	B3M	XI	3849	2	2.3×1.7	15	3.83	密集	F類15	黒15	
318	大和配水池	B4U	XII	3849		23×2	4	0.09	散漫	搔・削1、敲1、核2	黒2、凝1、安1	
318	大和配水池	L5	XIV	3849	1	23.5×19.2	79	0.17	散漫	ナ6、ス2、彫3、楔2、RF4、UF12、局斧5、打斧2、F類39、核2、敲2	黒34、凝27、チ12、頁4、ホ2	礫群2、配石2
347	打木原	B3L相当	Vb	1500	SX05	径4.0	61	4.86	やや散漫	RF1、F24、砕34、礫・焼礫2	硬細凝54、砂1、ホ4、流1、碧1	土坑9
347	打木原	B3L相当	Vb	1500	SX06	径4.5～4.6	26	1.60	局部的な集中	ナ1、RF3、UF1、F8、砕10、核1、敲2	硬細凝11、ガ黒安1、ホ13、石英斑岩1	土坑9
347	打木原	B3L相当	Vb	1500	SX07	径2.3～2.5	34	1.88	集中	RF1、UF1、F8、砕22、核2	硬細凝15、ホ18、黒(諏訪星ヶ台群)1	土坑9
347	打木原	B3L相当	Vb	1500	SX08	径3.3	41	1.20	散漫	RF1、F20、砕17、核2、敲1	硬細凝24、粗凝1、ホ2、頁14	土坑9

第3表 L3～B5層の遺物分布

No.	遺跡名	出土層位	文化層	調査面積(m ²)	各集中No.	分布範囲(m)	石器点数	分布密度	分布状態	器種組成(※1)	石材組成(※2)	備考 (共伴遺構など)
368	津久井城跡馬込	B3	5	860	-	7×5	31	0.8	散漫	ナ2、核2、F27	黒5、硬細凝23、珪頁1、中凝1、石英1	礫群1
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	A	8×8	468	7.3	集中	台形様1、ヘラ1、打斧2、核14、搔削1、搔1、磨1、敲3、砥2、RF9、UF1、F402、砕10、原2	黒8、硬細凝355、ホ61、細凝20、珪頁7、ガ黒安3、チ2、安1、中凝5、輝2、閃1、石英1、砂1、凝頁1	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	B	12×11	201	1.5	やや散漫	ナ2、台形様3、打斧2、核14、削3、彫1、敲5、RF3、F162、砕5、原1	黒16、硬細凝85、ホ37、珪頁41、頁1、凝頁1、ガ黒安11、チ1、輝2、細凝1、斑2、中凝3	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	C	11×10	228	2.1	やや散漫	ナ1、局斧1、打斧3、礫器1、核14、削2、搔1、楔1、敲3、RF9、UF1、F181、砕3、磨3、原2	黒7、硬細凝173、ホ21、水3、ガ黒安3、珪頁5、凝頁5、粗凝1、輝1、変輝1、中凝7、砂1	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	D	7×6	79	1.9	やや散漫	削1、RF6、F69、核1、台石1、敲1	黒7、硬細凝59、珪頁4、頁1、ホ1、チ3、ガ黒安1、輝1、細凝1、中凝1	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	E	5.5×4	100	4.5	集中	RF2、F87、核10、磨1	硬細凝10、珪頁71、チ14、ガ黒安4、細凝1	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	F	15×13	73	0.4	散漫	ナ1、台形様2、局斧1、磨2、敲2、磨1、核3、F52、原1	黒1、メ2、硬細凝40、珪頁12、凝頁1、ホ3、粘1、チ6、富玄1、細凝2、斑2、中凝1、砂1	礫集中
368	津久井城跡馬込	B4	6	860	G	7.5×5.5	139	3.4	集中	ナ1、台形様6、削2、RF2、調F1、F111、核2、打斧5、斧状1、核7、原1	黒6、硬細凝121、水4、珪頁1、チ1、中凝5、砂1	礫集中

※1 器種組成 (ナ：ナイフ形石器、台形様：台形様石器、ナ状：ナイフ状石器、尖頭状：尖頭状石器、搔：搔器、削：削器、彫：彫器、楔：楔形石器、敲：敲石、打斧：打製石斧、磨斧：磨製石斧、局斧：局部磨製石斧、台：台石、核：石核、原：原石・原材、刃：刃器、調F：調整剥片、磨状礫：刷石状円礫、UF：使用痕ある剥片、RF：加工痕ある剥片、錐：揉錐器、ピエス：ピエスエスキュー)

※2 石材組成 (黒：黒曜石、凝：凝灰岩、硬細凝：硬質細粒凝灰岩、細凝：細粒凝灰岩、中凝：中粒凝灰岩、粗凝：粗粒凝灰岩、流凝：流紋岩質凝灰岩、ガ黒安：ガラス質黒色安山岩、玄：玄武岩、富玄：富士玄武岩、玻玄：玻璃質玄武岩、安：安山岩、トロ安：トロトロ安山岩、頁：頁岩、珪頁：珪質頁岩、凝頁：凝灰質頁岩、チ：チャート、ホ：ホルンフェルス、輝：輝緑岩、変輝：変質輝緑岩、砂：砂岩、硬砂：硬質砂岩、粗礫：粗粒礫岩、粘：粘板岩、珪：珪岩、泥珪：泥岩質珪岩、水：水晶、斑：斑レイ岩、流：流紋岩、アブ：アブライド、石斑：石英斑岩、閃：閃緑岩、石英閃：石英閃緑岩、火：火砕岩、碧：碧玉)